

ケアマネジャーの倫理に関する 意識と行動：前編

執筆▶至誠館大学現代社会学部現代社会学科 教授 梅木幹司

日々の支援の中で、倫理的な問題で悩むケアマネジャーは多いのではないのでしょうか。梅木幹司氏は、2020年9月に主任ケアマネジャー4名にインタビュー調査を実施しました。5、6月号の「視点」では、調査で明らかとなった倫理的葛藤体験や、主任ケアマネジャーに求められる資質について梅木氏にご報告いただきます。

はじめに

介護支援専門員（以下、ケアマネジャー）は、介護保険制度においてケアマネジメントを担う重要な対人援助職であり、専門的な知識や技術に加えて高い倫理観が求められています。ケアマネジャーの行動指針として、介護支援専門員倫理綱領¹⁾（以下、倫理綱領）が整備されていることは言うまでもありませんが、ケアマネジャーは常にその倫理綱領を意識して行動することが求められています。しかしながら、ケアマネジャーの日常的な業務においては、様々な要因により困難や葛藤が存在し、多くのケアマネジャーはそれらを抱えながら利用者への支援を行っています。

倫理はケアマネジャーの仕事の中核であり、ケアマネジャーの仕事の困難さの多くは倫理的側面を含んでいると考えられます。その対応として、ケアマネジャーが葛藤の多い日々の業務を適切に理解し、行動できるようになるためには、ケアマネジャーとして成長が必要で、その成長には、倫理面での成長や

ケアマネジャーの責務である権利擁護についての意識の向上を含んでいます。

また、ケアマネジャーが常に倫理的問題と向き合っているにもかかわらず、ケアマネジャーの倫理に関しての本質を貫く研究は進んでいるとは言えない現状があります。筆者の研究の土台としたものには看護分野の倫理に関する研究がほとんどで、インタビュー調査のガイドを作成する上で特に参考にしたのは、宮脇氏らの著書²⁾のみでありました。

そこで、ケアマネジャーの倫理に関する研究の必要性を感じた筆者は、4人の主任ケアマネジャーに対して行ったインタビュー調査の結果をまとめ、「主任ケアマネジャーの倫理に関する意識と行動」²⁾と題して、所属機関の研究紀要に発表しました。本稿は、その研究紀要を土台としています。筆者が対象を主任ケアマネジャーに着目した理由は、ケアマネジャーとして様々な葛藤や困難、そして成長過程を経験していると考えたからです。本稿では、その主任ケアマネジャーのインタビューから示

されたケアマネジャーの倫理に関わる体験についての6つのカテゴリーを中心にその概要や関係性等について、4人の語りも紹介しながら述べたいと思います。

1. ケアマネジャーの倫理に関わる体験

ここでは、先ほど述べたケアマネジャーの倫理に関わる体験について4人の語りから示された6つのカテゴリーを中心に述べていきます。その6つとは、「日常的業務としての利用者や家族との意向の違いの調整」、「チームマネジメント」、「主任ケアマネジャーとしての成長」、「倫理面についての感受性」、「他のケアマネジャーの支援」、「ケアマネジャーとしての葛藤」になります。これらを表1にまとめています。

（1）日常的業務としての利用者や家族の意向の違いの調整

ケアマネジャーの業務では利用者との関係づくりと同様に、家族との関係づくりも重要です。利用者のご自身の意向